

これまでの記録

- 第1回 (27年4月24日)
「アトピー性皮膚炎と皮膚バリア機能、スキンケア」名古屋大学皮膚病態学教授 秋山真志氏
- 第2回 (5月16日)
「乳癌治療の流れについて」市民病院外科部長 (乳腺内分泌外科) 和田応樹
「乳癌の早期発見について」国立病院機構名古屋医療センター乳腺科医師 森田孝子氏
- 第3回 (7月11日)
「癌について ちょっと勉強しませんか？」市民病院外科部長 (消化器外科) 藤竹信一
「大腸疾患に対する外科治療の最前線～標準治療から最新治療～」名古屋大学消化器外科学講師 中山吾郎氏
- 第4回 (9月12日)
「心疾患と動脈硬化について」市民病院診療情報部長 (循環器内科) 齋藤誠
- 第5回 (12月12日)
「西尾で認知症になったら」市民病院精神科部長 川崖拓史
- 第6回 (28年2月27日)
「腰痛症について」市民病院副院長 (整形外科) 齋藤晴彦
「ロコモティブシンドローム～長寿と健康の不都合な関係～」名古屋大学医学部付属病院長 (整形外科教授) 石黒直樹氏
- 第7回 (5月28日)
「形成外科で扱う疾患と治療」昭和大学形成外科学教授 吉本信也氏
- 第8回 (7月9日)
「乳癌の正しい知識」市民病院外科部長 (乳腺内分泌外科) 和田応樹
「がんと心のケア～がんになっても自分らしく過ごすために～」名古屋市立大学精神・認知・行動医学分野教授 明智龍男氏

市民病院通信

市民公開講座

市民病院では、地域の皆さんに病院を周知し、健康管理に役立てていただくため、著名な大学教授や当院の専門医による市民公開講座を開催しています。事前申し込みは不要で、参加費は無料です。会場は市民病院2階の講堂です。

これまでに皆さんの関心の高い疾病をテーマに、左のとおり開催してきました。講座のアンケート結果では「すぐく分かりやすかった」ととてもためになったなどのご意見を多くいただいています。

次回予告

●第9回
時 10月29日(土) 午後1時30分～2時30分
演題 めまい
講師 市民病院耳鼻咽喉科部長 田中宏明

今回は「めまい」をテーマに左のとおり開催します。専門の医師が皆さんの疑問にお答えします。ぜひ、ご参加ください。
市民病院管理課 ☎56・3171

市民病院Q&A

Q 災害時に普段服用している薬をスムーズに処方してもらうために、日頃から気を付けておくことは何ですか？

薬剤部長 川澄清孝



A 災害時は普段行く医療機関や薬局が被災して投薬ができません。そのため、薬の服用履歴、アレルギーや薬による副作用の有無などを記録した「お薬手帳」があるとスムーズに投薬を受けることができます。避難所などで医療支援を行う医師や薬剤師は、患者さんの持病や普段飲んでる薬が曖昧な状態でも診療や投薬を行わざるを得ません。お薬手帳があれば、普段飲んでる薬を正確に伝えることができ、過去に飲んでいた薬から病歴をうかがい知ることもできます。同じ薬がない場合でも、お薬手帳の情報に基づき飲み合わせの問題がないかなどを判断して、適切な薬を出すことができます。

災害はいつどこで起こるか分かりませんが、お薬手帳を普段から持ち歩くことが理想ですが、できない場合には、すぐに持ち出せる場所に保管し、家族にも保管場所を知らせておくことが大切です。また、お薬手帳の内容を携帯電話などのカメラで写真、写真として保存したり、電子版お薬手帳を利用したりする方法も有効です。

市民病院管理課 ☎56・3171